

広がる「共育(トモイク)」応援！ パパの育児参加とお出かけの壁

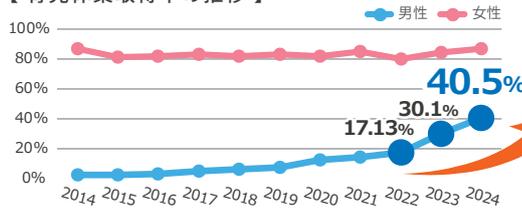
国を挙げた少子化対策が進む中、2025年7月に厚生労働省による「共育プロジェクト」が始動しました。「共に育てる」社会を目指し、男性の育休取得や家事・育児への参加がかつてないほど後押しされています。しかし一歩外へ出ると、まだまだパパ・ママのお出かけを阻む壁が存在しているようです。

調査データ：乳幼児連れに関する意識調査 2026 LIXIL
調査対象：20～49歳の子育て中(末子が0～5歳)の方、有効回答数：480人(男性240人、女性240人)

男性も育休が取れる社会へ。

男性の育児休業取得率は40.5% (2024年度)と過去最高を更新し、前年度から10ポイント以上の急上昇を見せています。政府はさらに2030年までに85%という高い目標を掲げており、男性の育児参加はまさに国を挙げた大きな潮流となっています。

【育児休業取得率の推移】



政府目標
男性の育児休業取得
2030年までに
85%

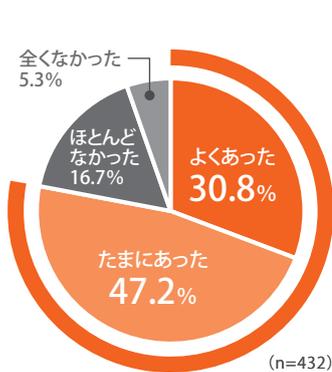


※出典：「令和6年度雇用均等基本調査」(厚生労働省)
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/71-r06.html>)を加工して作成

パパ・ママを待ち受ける「お出かけの壁」。

一方で、いざ育休を取得しても慣れない日々に戸惑ったり、外出先での不便さに直面するパパも少なくありません。実際に、小さい子どものお出かけ時に「不便・苦労」を経験した人は78%にのぼり、特に自分自身の用足しや子どものおむつ交換などトイレに関わる問題は、パパ・ママ共通の「お出かけの壁」として立ちはだかっているようです。

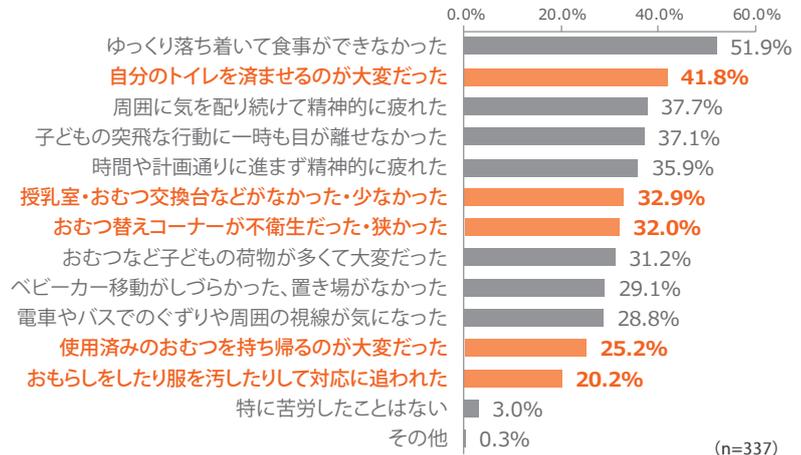
Q. お子様との外出で大変だったことや不便だったこと、苦労したことはありましたか。



78%が
お出かけ時に
不便・苦労を経験



Q. お子様との外出で大変だったことや不便だったこと、苦労したことであてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)



パパの声 外出先のトイレ利用で困ったこと

トイレが狭すぎて、外のベンチへ。周囲の視線を感じながらおむつ替えをした。(30代/男性)

おむつ交換台がなく車に戻って対応した。便もすぐ流せないのが本当にストレス。(30代/男性)

トイレが混んでいて、待っている間に子どもが漏らしてしまった(30代/男性)

混雑したトイレで待たずにギャン泣きされ、周りの目が気になった。(40代/男性)

POINT!

育休取得は当たり前前の時代へ。
その反面、子どもとのトイレ利用など「お出かけの壁」が顕在化しています。

「お出かけの壁」はいつまで？ 外出先トイレに感じる不便さとは

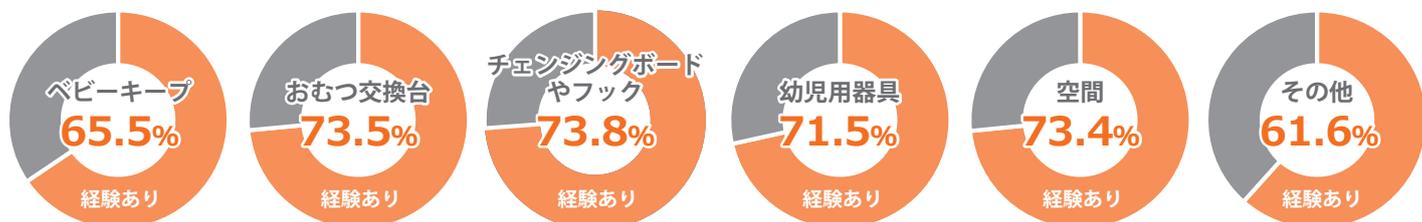
乳幼児を連れての外出において、避けて通れないのが「子どもとのトイレ利用」です。育児を協力して行う今、外出先のトイレ事情はパパ・ママ双方にとって切実な問題となっていますが、変化にインフラが追いつかず、誰もが不便・苦勞なく過ごせる環境にはまだ一步届いていないようです。

調査データ：乳幼児連れに関する意識調査 2025 LIXIL
調査対象：20～49歳の子育て中（末子が0～5歳）の方、有効回答数：960人（男性480人、女性480人）

6割以上がトイレで「困りごと」を経験。

外出先のトイレ利用時に経験した困りごとを調査したところ、どのカテゴリーでも**6割以上が「経験したことがある」と回答**。多くの乳幼児連れにとって、外出先のトイレは今なお「不便を感じる場所」となっています。

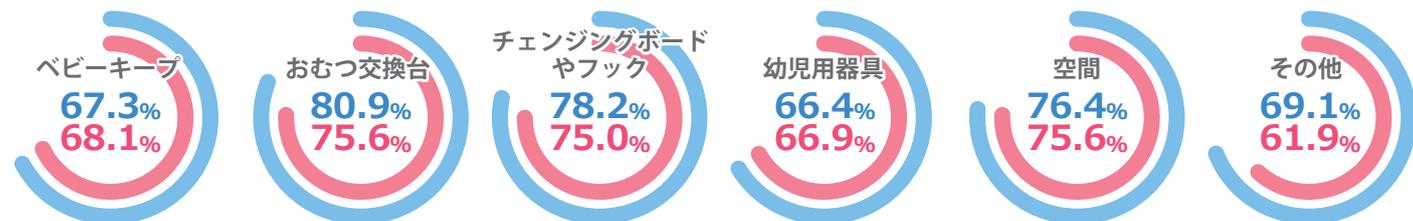
【 外出先のトイレにおける困りごとと経験率（カテゴリー別）：全体 】（n=960）



若いパパたちのお出かけ先での奮闘。

また、困りごとと経験率は全体では女性が高いのに対し、**20代においては男性が女性と同等か、それ以上となっています**。本調査の20代男性の育休取得率は59.1%に達しており、育児に積極的なパパと乳幼児との外出機会が増える中、男性用トイレの整備が追いついていない現状がうかがえます。実際に**20代男性の困りごととTOP5はすべて女性を上回っており**、おむつ交換台や着替え台の不足、設備の汚れがパパの育児を阻む大きな障壁となっています。**男性用トイレの環境改善**はまさに急務といえそうです。

【 外出先のトイレにおける困りごとと経験率（カテゴリー別）：20代男女比較 】 👤男性(n=110) 👤女性(n=160)



【 困りごと TOP5：20代男性 】

順位	項目	経験率
1	一般トイレにおむつ交換台がない	66.4% 女性 58.1%
2	バリアフリートイレや男女共用トイレにチェンジングボードがない	62.7% 女性 55.0%
3	一般トイレにチェンジングボードがない	61.8% 女性 54.4%
4	荷物を置けるフックや棚がない	60.9% 女性 55.0%
5	一般トイレのおむつ交換台が汚れていた	59.1% 女性 52.5%



POINT!

パパの奮闘だけで終わらせず、**時代の変化に合わせたトイレ整備が、**
これからの**育児の「安心」**へとつながっていきます。

成長とともに悩みは変わり、増えていく 「乳幼児」向け配慮の影に潜む盲点

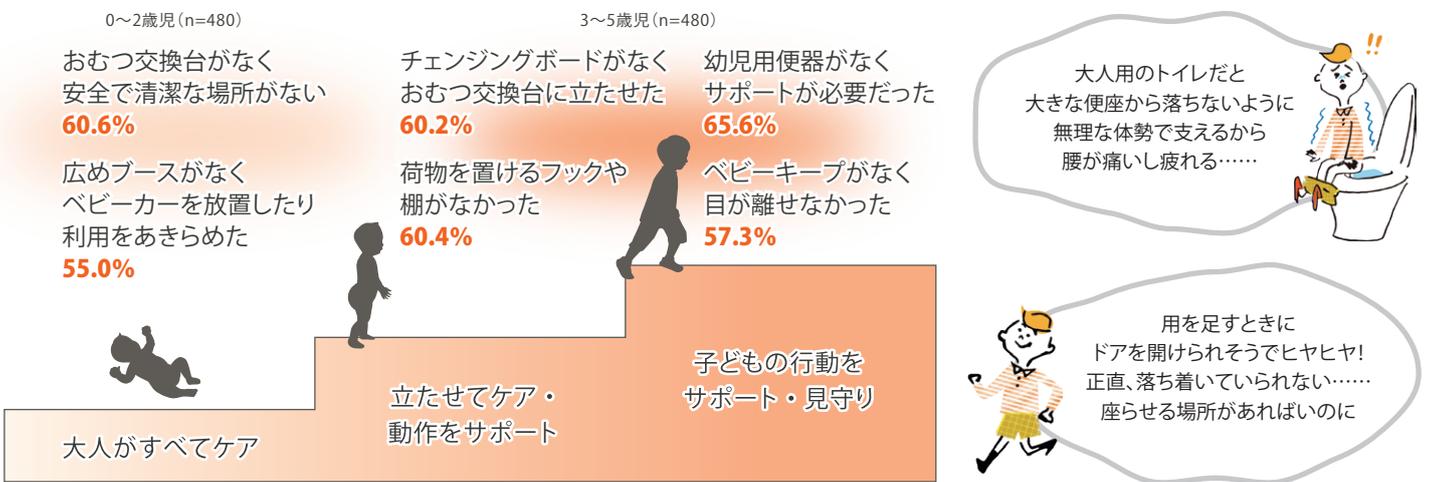
多くの施設で必要な配慮が模索される中、利用実態を調査すると、見えていなかった課題が浮かび上がってきました。一括りに「乳幼児」と言っても、「赤ちゃん」向けの備えだけでは解決できない問題点も。子どもの成長に伴いニーズも変化し、負担がさらに増していく現状が見えてきました。

調査データ：乳幼児連れに関する意識調査 2025 LIXIL

調査対象：20～49歳の子育て中（末子が0～5歳）の方、有効回答数：960人（男性480人、女性480人）

新たな不便に直面する3～5歳児のトイレ利用。

年代別に分けてみると、実は、0～2歳児よりも3～5歳児とのトイレ利用時の方が、より多くの困りごとを経験していることがわかりました。体が大きくなり自立が進む時期だからこそ、おむつ交換台やベビーキープといった「乳児向け」の設備だけでは充分とはいえないようです。



抱き上げないと手が届かない手洗いの負担。

どの年代にも共通する課題でありながら、盲点となっているのが「手洗い環境」です。幼児用の手洗いががないために、成長して重くなった子どもを抱き上げなくてはならず、親子ともに不自由な思いをしている実態が明らかになりました。



POINT!

子どもの成長に合わせた安心を。
変化していくニーズに応えることが、育児のサポートにつながります。

子どもと一緒に楽しく外出するために、理想はトイレの「専用ゾーン」?

たとえ設備が整っていても、使う人の気持ちに寄り添った場所になれば、どこか使いづらさを感じてしまうものです。そこには、ハード面だけでは測れないハードルが存在しているのかもしれない。

子どもを連れた人たちが実際に「使いやすい」と感じているのは、果たしてどんな場所なのでしょう。

調査データ:乳幼児連れに関する意識調査 2025 LIXIL

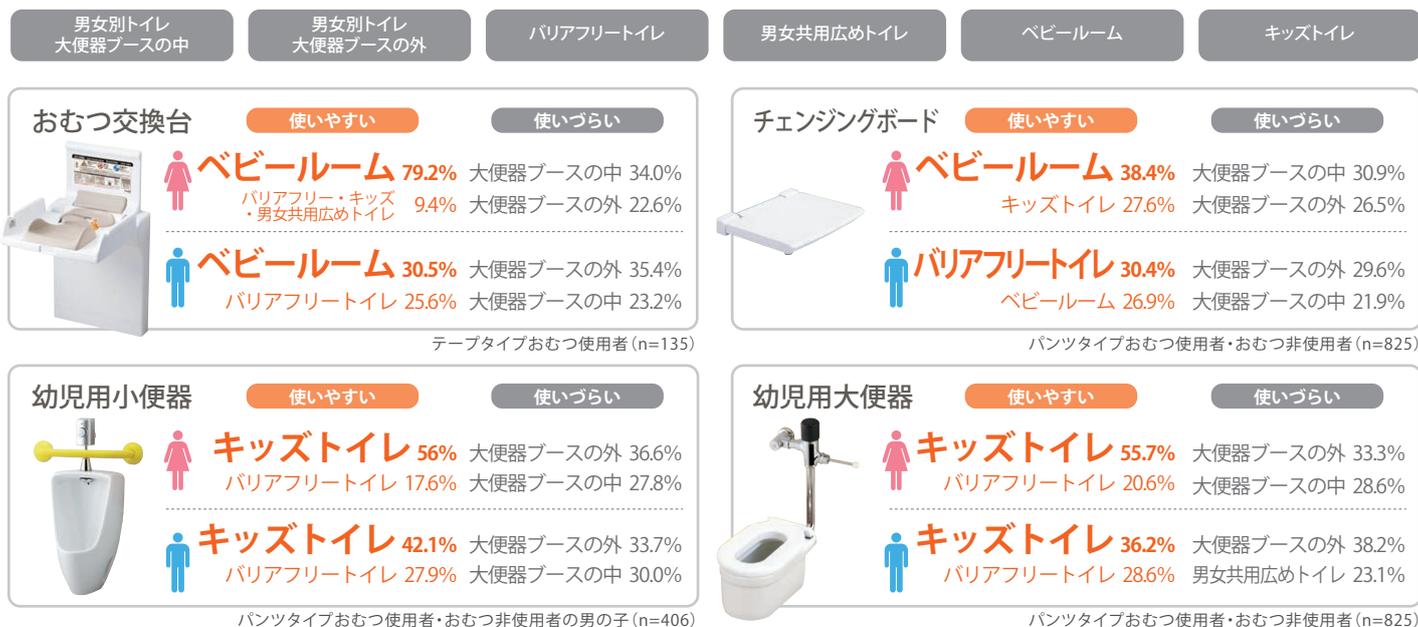
調査対象:20~49歳の子育て中(末子が0~5歳)の方、有効回答数:960人(男性480人、女性480人)

「一般トイレ」に感じる、周囲への気兼ねという心理的負担。

乳幼児用設備の設置場所について聞いたところ、**おむつ交換台・チェンジングボード**は「ベビールーム」、**幼児用便器**は「キッズトイレ」への設置が男女共に望まれているようです。反面、使いづらい場所として挙げられたのは「男女別トイレ(大便器ブースの中・外)」でした。背景には、他の利用者への気遣いや焦りといった、心理的な負担がハードルとなっている現状が考えられます。周囲の視線を気にせず使える**独立したファミリー向けの専用ゾーンの確保**は、子どもを連れて外出を楽しめる環境づくりのために必要といえるかもしれません。

Q. 設置場所で一番使いやすい／一番使いづらいと思うのは?

以下の選択肢から、男女別々に選ばれたTOP2を表示



FOCUS 男女で異なる「利用時の心理的ハードル」

おむつ交換台は、女性の79.2%が「ベビールーム」への設置を希望する一方、男性は30.5%。男性はベビールームへの心理的ハードルが高く、「バリアフリートイレ」への設置を望む声が目立ちます。



ベビー休憩室や授乳室は男性が利用しづらい雰囲気です。肩身が狭い。(40代/男性)

POINT!

ハードの先にある、誰もが気兼ねなく過ごせるゾーンの充実へ。
「設備があるかないか」だけでなく、「気持ちよく使えるか」を最優先した環境づくりを。

「男女共用広めトイレ」の 利用実態と求められるアップデート

「機能分散」の考え方が広まる中、新しい選択肢として「男女共用広めトイレ」の整備が始まりました。社会に浸透し始めたばかりの今、乳幼児連れの利用動機を紐解き、「男女共用広めトイレ」の利用価値をより高めるために必要なことが見えてきました。

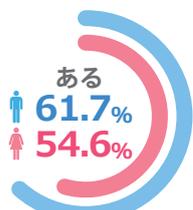
調査データ：乳幼児連れに関する意識調査 2026 LIXIL

調査対象：20～49歳の子育て中（末子が0～5歳）の方、有効回答数：480人（男性240人、女性240人）

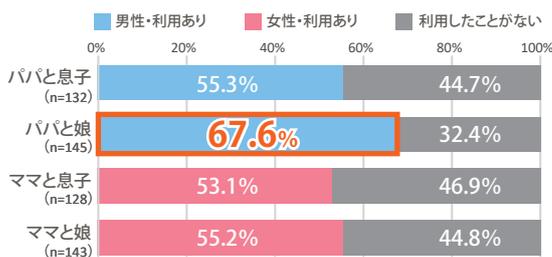
状況を選ばない利便性。親子が一緒に入れるトイレ空間。

「男女共用広めトイレ」の利用経験は、**男性（61.7%）が女性（54.6%）を7ポイントほど上回る結果**となりました。親子の組み合わせ別では、**パパと娘の利用が67.6%**と高い傾向にあります。利用理由は「**子どもと一緒に利用したい**」が62.7%で最多、次いで「**ベビーカーごと入室可能**」が41.9%、おむつ交換台や着替え台の「**設備利用**」が31.9%と続きます。また、**異性児との利用ニーズも22.9%**と高めです。

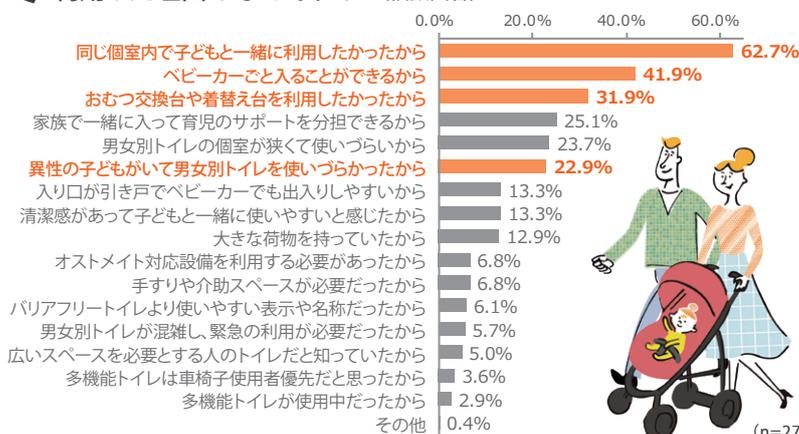
Q. お子様との外出時に
「男女共用広めトイレ」を
利用したことがありますか？
(n=480)



【親子の組み合わせ別】



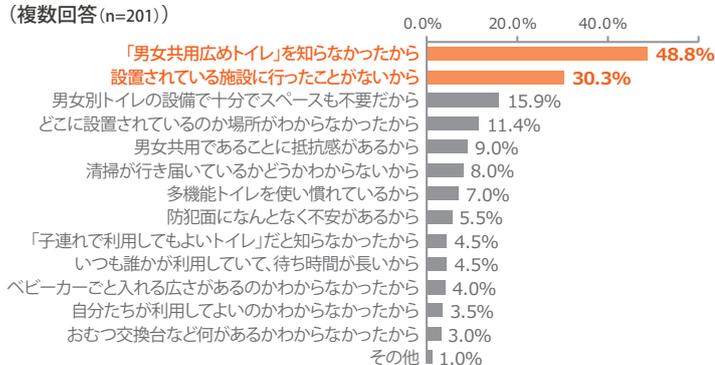
Q. 利用した理由はなんですか？（複数回答）



認知拡大と表示の明確化が利用への鍵。

一方で、未利用の理由は「**存在を知らなかった**」が約5割を占め、「**設置施設への訪問経験がない**」が続き、認知不足と設置箇所の少なさが浮き彫りとなりました。今後の利用条件を問う回答では、「**利用対象が明確な表示がある**」が最も高く、**衛生管理や認知向上**も求められています。また、女性を中心に男女共用への抵抗感も根強く、**男女別を希望する声や心理的安全性を確保する配慮**も必要です。

Q. 利用しなかった（できなかった）理由はなんですか？
（複数回答（n=201））



Q. どのような条件が整えば利用してみたいと思いますか？
（複数回答（n=201））

順位	項目	回答率
1	「お子様連れ優先」など利用対象が明確な表示がある	43.3%
2	清掃が行き届き衛生的である	31.8%
3	存在が社会にもっと広く認知されている	23.9%
4	おむつ交換台や幼児用便器など子連れ向け設備がある	20.9%
4	男女別であれば利用したい	20.9%
6	バリアフリートイレと別にわかりやすい場所にある	19.9%
7	おむつ専用のごみ箱が設置されている	15.9%

POINT!

「男女共用広めトイレ」は機能分散を担う重要な存在です。
設置して終わりにせず、使う人に寄り添った設計にする必要があります。